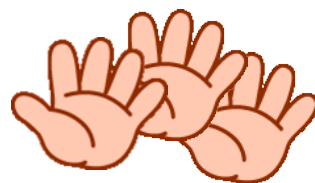


テトテトテトテテ



校長だより 令和4年9月 NO. 4



地域の「松ろうファン」との出会い

9月1日、転入生幼稚部1名を迎え、幼児児童生徒30名で、2学期がスタートしました。まだまだ暑い日が続いていますが、子どもたちは、9月23日に開催する「松ろう祭」に向け、準備や練習に励んでいます。

今回のテーマは、地域連携には欠かせない(?)「松ろうファン」についてです。私がお会いしたお二人の「松ろうファン」を紹介します。

Aさんは、古江地区でボランティア活動をされている元保育士の方です。先日、Aさんと校長室で打ち合わせをしていた時、「ドンドン、カッカ」と、小学部が練習する和太鼓の音が聴こえてきました。Aさんの「ぜひ見たい」という要望を受け、体育館へご案内して、子どもたちの様子を見ていただきました。帰り際に、「今日は、来て良かったです。久しぶりに松ろうの子どもさんの太鼓を聴くことができ、元気をもらいました。とても感動しました。外からでもいいので、また見せてほしいです。」とおっしゃいました。

コロナ禍になる前は、古江地区文化祭で、オープニングの「松ろう太鼓」を楽しみに聴いておられたようです。

残念ながら、コロナ感染防止対策のため、本番の「松ろう祭」には、地域の方をお招きすることができません。しかし、何らかの方法で、「松ろう太鼓」を地域の方に披露することができないか、検討してみたいと思います。

Bさんは、松江市職員の方です。先日、古江小学校で行われた4年生の交流及び共同学習「スーパーヘルンさん講座」(松江市観光振興課主催)でお会いしました。古江小学校と本校は長年にわたり学校間交流を行っています。松江市の上定市長と共に来校されていたBさんは、「私は、朝の通勤時、宍道湖温泉駅で停車している『かきばら号』を見かけます。バスに乗る時に「おはようございます!」という生徒さんの挨拶が素晴らしく、いつも感心しています。明るく爽やかな挨拶に、毎朝、元気をもらっています。」とおっしゃいました。



【小学部1年生 「松ろう太鼓」のステージ練習】



スクールバス「かきばら号」

お二人の「松ろうファン」のお話をうかがい、「本校の子どもたちが地域の方々を元気にする!」という実感を得ました。

今後も、「松ろう」を見守り、応援して下さる「松ろうファン」とつながること、「松ろうファン」を増やすことを自己目標の掲げ、校長室から地域へと積極的に出かけて行きたいと思います。